

# 小学部中学年グループ研究

---

# 1 研究グループの概要

- 令和5年度より、小学部 I コース3、4年生を中学年グループとする。
- 在籍児童17名（3年生11名、4年生6名）
- 研究対象授業：音楽（主に音楽1グループ）
- 研究グループの構成は、担任8名＋地域支援部主任

## 2 昨年度の実践

- 個別学習の国語・算数を対象授業とし、授業実践シートを用いて指導と評価の一体化について研究を行った。その研究の成果と課題を踏まえ、今年度は集団授業である音楽を対象授業として研究を行っていくこととした。

# 3 研究経過

①学習指導要領を参考に「音楽的な見方・考え方」について確認した。

②『ラーニングマップ』を用いて国語・算数の実態把握をした。それを踏まえた上で、教科横断的に実態を把握することを共通確認した。

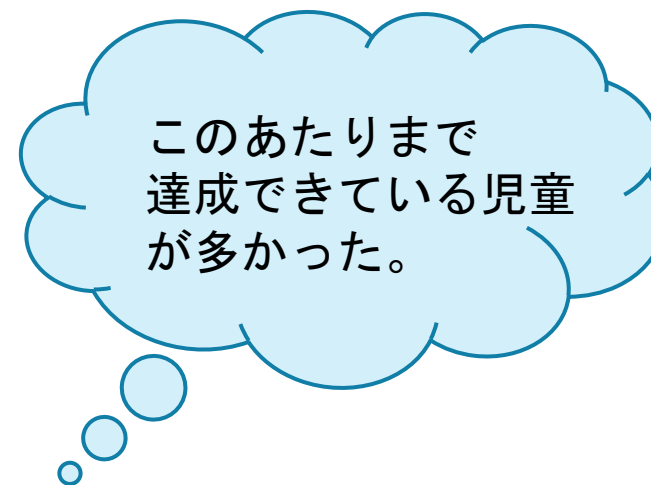
## ③音楽の実態把握

音楽活動のチェックリスト(※1)に基づき、実態把握を行った。そのチェックリストの内容から、観点「器楽」において、本グループの児童の多くがより高い目標を達成できると考え、「器楽」を題材とする活動を取り入れた授業づくりをテーマに研究を進めていくこととした。

※1 参考文献『子どもの世界をよみとく音楽療法 特別支援教育の発達の視点を踏まえて』（加藤博之 著、明治図書）

### 【楽器の操作のアセスメント】

学習指導要領	項目	チェック
1段階	楽器に興味を示す	
	楽器に手を出す（触覚受容の高まり）	
	楽器を持つとする	
	楽器を握る、放すことができる	
	楽器を振って音を出す	
	楽器をひっかいたり、叩いたりする	
	鍵盤を手で押し続ける	
	楽器を入れ物（箱）から出すことができる	
	手をすべらす操作を行う	
	楽器を入れ物（箱）に入れることができる	
	パチで叩く（片手、両手）	
	吹いたり吸ったりして音を出す	
	弦を手ではじく	
	立位で楽器の操作ができる（注視の育ち）	
	鍵盤を1本の指で押す	
2段階	打面を手で叩く（タンバリンなどの手で叩く打楽器）	
	打面を手で叩き続ける（タンバリンなどの手で叩く打楽器）	
	打面をパチで叩く（太鼓などのパチで叩く打楽器）	
	両手でパチを持って同時に叩く（太鼓などのパチで叩く打楽器）	
	両手でパチを持って交互に叩く（太鼓などのパチで叩く打楽器）	
	楽器をテンポに合わせて叩く、振る（繰り返されたテンポ）	
	音楽にすぐに合わせてテンポ打ちができる	
	曲の初めと終わりを理解して楽器操作を行う	
3段階	音楽の強弱を意識して楽器を操作する	
	即興的なテンポ打ちができる	
	パター的なリズム打ちができる	
	両手で交互にパチを打つことができる	
	柔軟なリズム打ちができる	
	音階が理解できる	
	色音符に合わせて音階楽器を演奏できる	
	音階楽器を伴奏に合わせて演奏できる	
	合奏で自分の役割を演じることができる	



## ④授業実践

- ・昨年度作成した授業実践シートを基に、集団授業用のものを作成。
- ・児童の実態、課題を基に単元を設定。

### 実態

- ・色楽譜を見ながらキーボード等の音階楽器で簡単な曲を演奏することができる。
- ・自分なりのテンポで演奏してしまうことが多く、友達と一緒に演奏することが難しい。

### 課題

- ・それぞれが個々で演奏する力は高い。
- ・合奏につながる力を身に付けたい。

### ベルハーモニーでの分担奏

- ねらい（合奏につながる力）
- ・自分以外が奏でる音を聴く
  - ・人と一緒に演奏することを楽しむ
  - ・テンポを意識する
  - ・役割の理解



R5授業実践シート～指導と評価の一体化を目指して～

教科等	音楽	単元名	【器楽】ミュージックベル/ハンドベル『きらきらぼし』			
教科の見方・考え方：音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形作っている要素とその動きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などを関連付けること						
どんな授業にしていくか？（ひとことで）：ミュージックベルやハンドベルの分担奏を通して、音階やリズムの理解を深め、友達と一つの音楽をつくりあげる楽しさや達成感を感じられる授業。 （出された意見：・音階やリズムの理解を深める・楽器や音楽の楽しさを感じる・友達と一緒に演奏する楽しさを味わう・繰り返し取り組み、できるようになることで達成感を得る・友達の演奏に興味をもつ）						
学 年	3・4年	児童	9名（A・B・C・D・E・F・G・H・I）			
		指導者	4名			
① 目 標	知	①音階に親しみ、リズムを意識しながら曲に合わせて演奏することができる。	評 価 規 準	知	③リズムを意識しながら曲に合わせて演奏している。 ②リズムを意識しながら演奏している。 ①教師と一緒にリズムを意識しながら演奏している。	
		②音階やリズムの変化を理解して曲に合わせて演奏することができる。			③音階やリズムの変化が分かり、演奏できている。 ②教師の促しを受けることで音階やリズムの変化が分かり、演奏できている。 ①教師と一緒に音階やリズムの変化を意識しながら演奏できている。	
	思	①分担奏で教師の合図を見て自分の担当する音を鳴らすことができる。		思	③教師の合図に合わせて自分が担当する音や楽器を鳴らしている。 ②教師の支援を受けて自分が担当する音や楽器を鳴らしている。 ①教師と一緒に自分が担当する音や楽器を鳴らしている。”	
		②分担奏で友達とタイミングを合わせて音をつなぎ、一つの曲を演奏することができる。			③自分が担当する音や楽器をタイミングに合わせて鳴らしている。 ②教師の支援（指差し等）を受けることで、自分が担当する音や楽器をタイミングに合わせて鳴らすことができている。 ①教師と一緒に、自分が担当する音や楽器をタイミングに合わせて鳴らそうとしている。”	
学	・リズムや音色を楽しみながら、楽器を鳴らそうとしている。	態	③進んで楽器を鳴らそうとしている。 ②教師の声掛けを受けて楽器を鳴らそうとしている。 ①教師と一緒に楽器を鳴らそうとしている。			

㊦ 指導と評価の実際

日付：R5年10月3日

		◎充分達成できた(達成度100%)	○達成できた(達成度80%)	△部分的に達成できた(達成度50%)	A	B	C	D	E	F	G	H	I	
◎ 評価 規 準	知・技	①音階に親しみ、リズムを意識しながら曲に合わせて演奏することができる。										△	△	
		②音階やリズムの変化を理解して曲に合わせて演奏することができる。	○	△	欠	○	△	△	◎					
	思・判・表	①分担奏で教師の合図を見て自分の担当する音を鳴らすことができる。											△	△
		②分担奏で友達とタイミングを合わせて音をつなぎ、一つの曲を演奏することができる。	△	△	欠	△	△	△	△	△	△			
態	・リズムや音色を楽しみながら、楽器を鳴らそうとしている。	◎	○	欠	○	○	○	○	◎	◎	△	△	△	

〈授業反省と改善策〉

① 目標について

・リズムの変化を目標に入れてあるが、『きらきら星』の楽曲ではリズムが変化することがない。分担奏の取組後、別の曲でリズムの変化をねらっていけると良い。

② 題材内容について

・『きらきら星』は昨年度キーボードの演奏で取り組んだ楽曲である。そのため児童がメロディーや音階を覚えており、一から楽曲を覚えるのではなく「分担」の部分にだけ課題を設定して取り組むことができているので良い。

③ 教材教具について

・顔写真付きの色楽譜を用いたことで、自分が担当する音とタイミングが分かりやすかった。  
・ベルハーモニーは音階を意識しやすく、どの児童も音を鳴らしやすい楽器なので良い。

④ 指導方法について

・1人で『きらきら星』を全て演奏する→教師と分担奏をする→友達と分担奏をする、という流れで分担奏に取り組んでいく予定だが、児童にとって分かりやすく良いと思う。今回、教師と分担奏をするところまでスムーズに目標を達成できているので、次回児童同士での分担奏につなげていく。

⑤ 環境設定について

・ベルハーモニーの音に敏感に反応してしまう児童がいるので、次回からイヤーマフを装着させてみる。

⑥ グループ設定と指導体制について

・音楽は実態に合わせて2グループに分けて学習に取り組んでいるが、実態がグループに合っていない児童もでてきている。より実態に合わせた学習を行っていくために、来年度以降のグループ変更を検討していく必要がある。

〈特記事項〉※児童の様子等、反省として特にあげる必要がある様子やその行動

・本時は教師との分担奏の2回目の授業である。どの児童も音を分担すること、自分が担当する2音が分かっていた。曲を覚えていて楽譜がなくても分担奏ができる児童、色楽譜を見ながらタイミングに合わせて分担奏ができる児童、教師の合図や指差しを頼りに音を鳴らせる児童など、それぞれの方法で分担奏を行うことができた。



㊦ 指導と評価の実際

日付：R5年 11月 27日

		◎充分達成できた（達成度100%）	○達成できた（達成度80%）	△部分的に達成できた（達成度50%）	A	B	C	D	E	F	G	H	I	
◎ 評価 規 準	知・技	①音階に親しみ、リズムを意識しながら曲に合わせて演奏することができる。										○	○	
		②音階やリズムの変化を理解して曲に合わせて演奏することができる。	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
	思・判・表	①分担奏で教師の合図を見て自分の担当する音を鳴らすことができる。											◎	◎
		②分担奏で友達とタイミングを合わせて音をつなぎ、一つの曲を演奏することができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
態	・リズムや音色を楽しみながら、楽器を鳴らそうとしている。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	

〈授業反省と改善策〉

① 目標について

・思・判・表の①の目標（対象：莉瑚、大晟）を設定した当初は、教師の指差しや合図がなければ演奏が難しい実態だったが、取り組みを通して飛躍的に力が伸び、①の目標は簡単に達成してしまい、②の目標でも評価できるほどだった。児童が予測よりも力をつけることができた時に、それを評価ができないことの難しさと、適切な目標設定の難しさを感じた。

② 題材内容について

・児童にとって親しみが深く、音階も覚えている『きらきら星』なので、分担奏を取り組みやすかった。ただ、昨年から取り組んできている曲なので、少し飽きてきている児童もいる。

③ 教材教具について

・色楽譜がベルハーモニーの色と対応しており、見やすく分かりやすかった。  
・色楽譜を、担当の音に顔写真が付いたものや、写真のないものなど様々な段階の物を用意して、徐々に視覚支援を減らしていったことが良かった。最終的に一つの色楽譜を3人で見て演奏することができるようになった。

④ 指導方法について

・1人で演奏する→教師と分担奏をする→友達と分担奏をする、という流れで取り組んだことで、友達同士での分担奏がとてもスムーズにできた。  
・分担奏の取り組みを4年生は計10回、3年生は計6回取り組んだ。（回数の差は感染症の流行等での授業変更のため。）長い期間、回数を重ねてじっくりと取り組めたことで、児童の力を伸ばすことができた。  
・児童の実態差があったが、実態に応じて担当する音を決めたことで難易度を調整することができて良かった。

⑤ 環境設定について

・ベルハーモニーの音に過敏な児童がいるが、イヤーマフを装着することで演奏に集中することができ、良かった。  
・本児はベルハーモニーでの分担奏の最終回だったため、発表会という形でいった。緊張している児童もいたが、集中してよい演奏をしようとする児童の様子が見られた。

⑥ グループ設定と指導体制について

・小中グループの音楽は実態別に2グループに分けているが、グルーピングが適切にできていたか課題が残った。教師の主観ではなく、今回研究で取り扱ったようなアセスメントシートや、指導要領などを元にそれぞれの児童の能力や課題の段階を客観的に分析して適切にグループ分けをしていく必要がある。

〈特記事項〉※児童の様子等、反省として特にあげる必要がある様子やその行動

・本単元を設定する際に課題としてあがっていたことが、能力の高い児童への学習の充実であった。特に愛月さんの能力がとても高く、より充実した音楽的な学習を行っていききたいが、今回の分担奏ではその点において課題が残った。今後、愛月さんは和音での分担奏に取り組むなど、個の能力に応じた取り組みを行っていききたい。

単元の評価と反省・まとめ

		A	B	C	D	E	F	G	H	I		
目標	知	①音階に親しみ、リズムを意識しながら曲に合わせて演奏することができる。								②	②	
		②音階やリズムの変化を理解して曲に合わせて演奏することができる。	③	③	③	③	③	③	③			
	思	①分担奏で教師の合図を見て自分の担当する音を鳴らすことができる。								③	③	
		②分担奏で友達とタイミングを合わせて音をつなぎ、一つの曲を演奏することができる。	③	③	③	③	②	③	③			
	学	態	③リズムを意識しながら曲に合わせて演奏している。 ②リズムを意識しながら演奏している。 ①教師と一緒にリズムを意識しながら演奏している。									
			③音階やリズムの変化が分かり、演奏できている。 ②教師の促しを受けることで音階やリズムの変化が分かり、演奏できている。 ①教師と一緒に音階やリズムの変化を意識しながら演奏できている。									
		③教師の合図に合わせて自分が担当する音や楽器を鳴らしている。 ②教師の支援を受けて自分が担当する音や楽器を鳴らしている。 ①教師と一緒に自分が担当する音や楽器を鳴らしている。”										
		③自分が担当する音や楽器をタイミングに合わせて鳴らしている。 ②教師の支援（指差し等）を受けることで、自分が担当する音や楽器をタイミングに合わせて鳴らすことができている。 ①教師と一緒に、自分が担当する音や楽器をタイミングに合わせて鳴らそうとしている。”	③	③	③	③	②	③	③			
		③進んで楽器を鳴らそうとしている。 ②教師の声掛けを受けて楽器を鳴らそうとしている。 ①教師と一緒に楽器を鳴らそうとしている。	③	③	③	③	③	③	③	③		

反省	目標について	・単元設定当初想定していたよりも児童の実態が高かったことが取り組みを通して分かった。もう少し高い目標を設定してもよかった。
	単元・題材設定について	・分担奏の取り組みを通して、友達と一緒に演奏することやタイミングやリズムを意識して演奏できるようになった。自分の役割を意識したり、周りに合わせて奏でることなど合奏への基礎的な力をつけることができ、よい取り組みだった。
	取り組み方法や活動について	・一人で演奏して音階の理解→教師との分担奏で自分の担当する音を知る→友達と分担奏、の流れで段階的に取り組み、どの児童も分担の理解をして演奏ができるようになって良かった。
	評価規準の設定について	・目標と同様に②段階の評価規準はもう少し高いものに設定しても良かった。目標や評価規準が低すぎてしまっても高すぎてしまっても児童を適切に評価できないと感じた。児童の適切な実態把握の大切さを改めて感じた。
	体制について	・教員の体制については良い。 ・児童のグルーピングは課題が残ったので、来年度は実態把握を丁寧に行い、適切なグループ分けができるように心がける。

# 取り組みの様子

## ①曲の音階やリズムを覚える

活動	一人で曲を演奏する。
指導方法 と 工夫点	<ul style="list-style-type: none"><li>・色楽譜を用いて音階を視覚的に分かりやすく提示。</li><li>・曲は児童にとって馴染みのある『きらきら星』。リズムも一定で分かりやすい。</li><li>・指差し等の支援。（楽譜を指差すか、ベルを指差すかは児童の実態に応じて行った。）</li></ul>
児童の 様子	<ul style="list-style-type: none"><li>・馴染みのある曲だったこともあり、2回の取り組みでほとんどの児童が音階を覚えて演奏できるようになった。</li></ul>
課題	「分担」の理解。

# きらきらぼし

ど ど そ そ	ら ら そ ○	ふあ ふあ み み	れ れ ど ○
そ そ ふあ ふあ	み み れ ○	そ そ ふあ ふあ	み み れ ○
ど ど そ そ	ら ら そ ○	ふあ ふあ み み	れ れ ど ○

## ② 「分担」の理解

活動	教師と分担奏をする。
指導方法と工夫点	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 実態に応じて担当する音を2音ずつ設定。</li><li>・ 色楽譜に顔写真を付け、担当する音を分かるようにした。</li><li>・ 指差しの支援は色楽譜のみ。（ベルの指差しはしない。）</li></ul>
児童の様子	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 回数を重ねるごとに、自分の担当する音が分かり、タイミングを待って鳴らすことができるようになった。</li></ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 対教師なので相手に合わせようという意識は低い。（教師が児童に合わせて演奏したため。）</li></ul>

### ③ 友達とタイミングを合わせて演奏する

活動	友達と3人一組で分担奏をする。
指導方法と工夫点	・色楽譜の顔写真と、指差しの支援をなくす。（音を聞いて演奏ができるようにする。）
児童の様子	・顔写真や指差し等の支援がなくても、お互いのベルの音を聞いてタイミングを合わせ、一つの曲を演奏することができた。
課題	・実態差があり、簡単にできてしまった児童もいた。和音での分担奏にするなど、児童の実態に応じて課題を設定できると良かった。

# 4 成果と課題

- ・ねらいであった「役割や分担を理解して演奏する」「友達の演奏を聞く」「友達と一緒に演奏することを楽しむ」をどの児童も達成することができた。今後は合奏へとつなげていく。
- ・取り組み後、アセスメントシートで児童の実態を再確認したところ、「器楽」分野を始め、全体的に音楽の学習状況の進歩が見られた。
- ・授業実践シートを用いたPDCAサイクルでの取り組みを通し、授業改善ができた。
- ・評価規準についての考え方、設定の仕方についてグループ間で意見を交換しながら、考えを深めることができた。
- ・集団授業での評価規準の設定の難しさを感じた。規準を低く設定しすぎても、高く設定しすぎても児童の成長を適切に評価することができない。適切な規準を設定するために実態把握を丁寧に行うことの大切さを改めて感じた。
- ・今回、「友達と合わせる」ことがテーマのひとつであったが、これは音楽だけで取り組んでいくのではなく、各教科等で横断的に取り組んでいくことが大切である。